

教育シンポジウム 7/29 「どうなっているの 今の学校」

7月29日に「どうなっているの？今の学校」と題して、教育シンポジウムを行いました。参加者はオンラインを含めておよそ60名が参加。中でも現場の教職員が30名近く参加していました。

まずはじめに、全教中央執行委員長の宮下さんから問題提起として、全教の教職員勤務実態調査の結果をもとに、今の教職員の実態を語っていただきました。続けて、新日本婦人の会広島県本部事務局長の大平さんが保護者の立場から今の学校の様子を見た状況について問題提起をしていただきました。その後、4人の方から「職場の人員不足の実態」「中学校の部活動顧問の状況」「子どもの不登校やふれあい教室へ通う子どもの増加」「保護者と学校の連携不十分な実態」が報告されました。

グループで交流などをおこなった後、「この状況を解消するために、この問題を広く伝え、署名に取りんできよう」と行動提起がされました。

参加者の感想から

- 宮下委員長のお話で限界まできている教育の現状がよくわかりました。教師はいい人が多いので倒れるまで我慢しています。職員報告会でどの先生が親切なのかもわからず、相談できないのでしょうか。宮下委員長は温かく、はなちゃんの母さんのお話が優しくいいなと思いました。
- 保護者の立場で参加しました。学校での先生の大変さが想像を超えてびっくりしました。保護者も、学校の現状を知ることが大切だと感じました。
- 私たちが子どものころは、先生はあこがれの職業でした。先日、中国新聞の記者が教員資格をもちながら、教員は大変だから記者になったと聞きました。記者より教員のほうが大変なのかとびっくりしました。話を聞き、納得。PTA、保護者を味方につけてがんばりましょう。
- 教員の働き方の課題が整理されていてとてもよくわかった。「定額働させ放題」というのがまさにぴったりです。教師の働き方はまさに子どもの教育条件の問題として取り組みをすすめないといけないと思う。保護者の抱えている課題を上手にまとめて報告してもらいました。子どもの成長発達を真ん中においた関係づくり、改善を求める取り組みが大切。



- 子どものことで気になることはいっぱいです。願いはただ一つ「子どもの最善の利益」のために心ある人

たちで力を合わせてがんばりましょう。

- 学校を救うためには、先生たちを救うことが重要です。そのためには、給特法を変えることではありません。ともかく、業務を減らすこと、先生が人間らしく生きられる(人との関わりも含めて)環境なら若い先生も辞める人が減るのではないかと思います。
- どの学校も人手不足なのにも関わらず、業務量(無駄な)多さが教員を苦しめているということがわかりました。教員も子どもも楽しいと思えるような学校をつくってほしいです。研究授業や学力テストは誰のためなのかと思います。

- 「先生がいない」問題は、どこの職場でも慢性的にある問題だと言います。子どもたち、職員同士が「話したい、共感したい」という思いに応えられる学校であってほしいです。そのためにもいろいろな立場の人が「こども」の話をも真ん中にし、話をして交流することが大切です。 「先生」と「予算」を教育現場に！署名がんばります。



- 学校は綱渡り、崖っぷちの状態だと改めて感じた。だれのためにもならないこの状態、変えなくては！
- 小学校の特別支援担任です。4月に転勤して会計業務がたいへん負担です。今日も交流したり、職場の管理には伝えたりしていますが、今日くわしい知り合いに現在の状況を伝えてアドバイスしてもらったので次回から少しは改善するとは思いますがどの職場に転勤してもより間違わずに(短時間で)できる会計をお願いしたい。また、会計業務そのものを担任外でやってほしい。



- 今の教育現場の様子がわかりとてもよかったです。署名集めに協力します。アンケートや報告者など教育委員会や学校のメンツをやっている感を示すだけの業務が増加していると思います。週案や自己申告もしかりです。仕事を減らして、教員を増やし、子どもとふれあいを楽しむ時間が教員には必要だと思います。
- 学校が全然働き改革ができていない職場だと改めて思いました。海外で教職員数が多く、仕事が分担できていると聞きました。もっと人を増やしてほしいと思います。